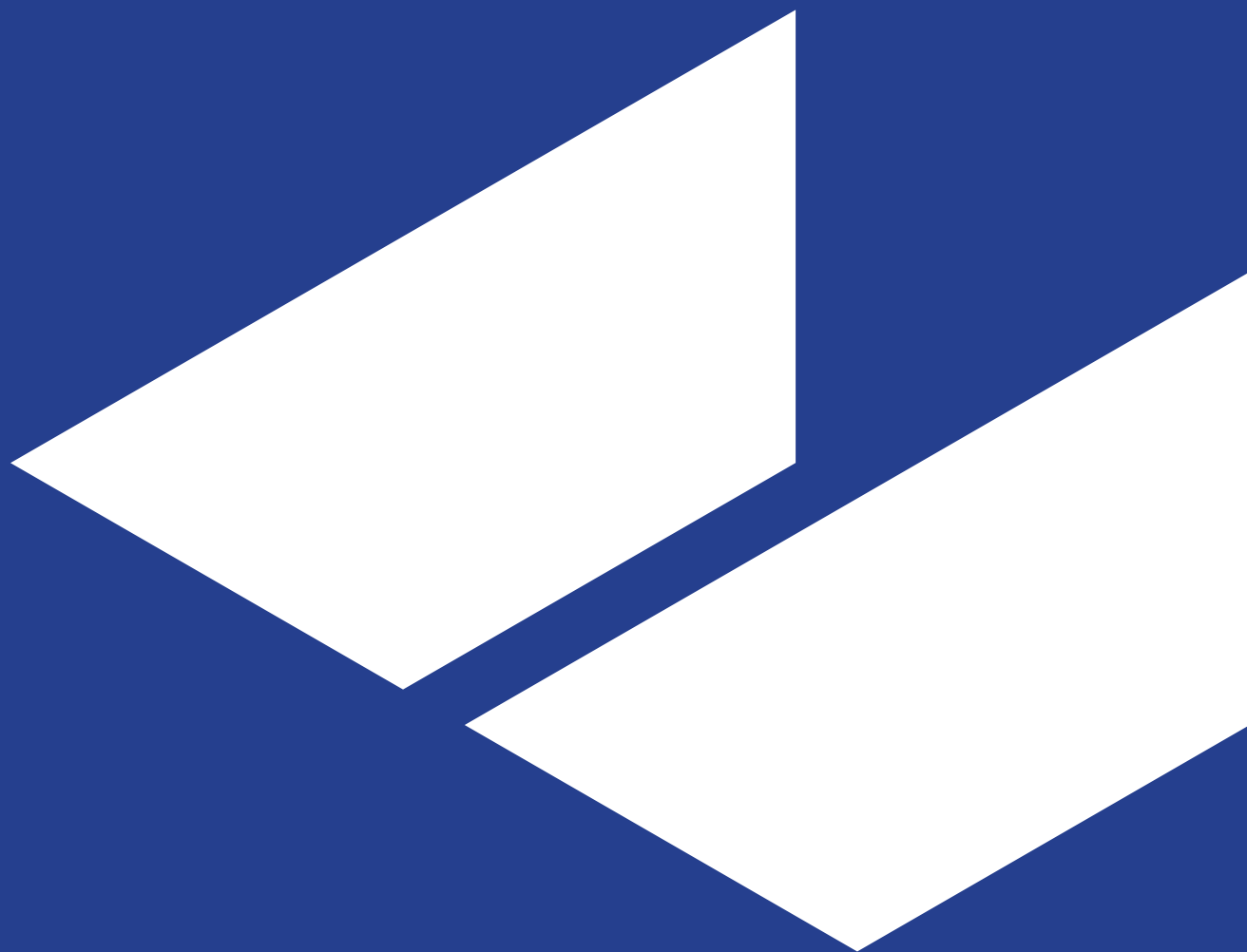


FUKUI BANK REPORT 2023

第204期
営業の中間ご報告

ミニディスクロージャー誌

2023年4月1日から2023年9月30日まで



頭取インタビュー

理念体系

取締役 兼 代表執行役頭取
長谷川 英一

企業理念

Mission

存在意義

地域産業の育成・発展と
地域に暮らす人々の豊かな生活の実現

経営理念

Commitment

経営のコミットメント

トライアングル・バランスの実現

「職員の満足(働きがい)」 「お客さま(地域)のご満足」
「株主の方々(投資家のみなさま)のご満足」
をバランスよく高める経営を実現します。

行動理念

Action

役職員の日々の行動

「誠実」×「情熱」×「行動」

「誠実」...相手を大切に思い、
「情熱」...強い信念を持ち、最後まで諦めず、
「行動」...実際の働きで示す

「地域産業の助成こそ使命」
という創立当時の想いは、
企業理念となって現在も変わらず
受け継がれています。

職員のウェルビーイングの実現と、お客さまへの「正しいアプローチ」による伴走支援で、 活力にあふれた地域の実現を目指します。

Question

中期経営計画の1年目を振り返ってください。

2022年度からスタートした中期経営計画Iの取組みを進めていく中で、明らかに行内の空気感が変わってきたと感じています。職員には、資金需要だけを追いかけるのではなく、お客さまの頭の中に入り込んで、夢や真の課題を共有し、その実現・解決のために汗をかくんだと、繰り返し伝えていて、その考え方が随分浸透してきました。お客さまからも、今までとは動きが違うと言っていただけるようになりました。福井銀行は良くなる「かも」から、良くなってきたと、「確信」に変わってきた手応えを感じています。お客さまの真の課題を発見するために地道な取組みを重ね、しっかりお客さまのニーズを理解し、グループ一体で付加価値をご提供する。この「正しいアプローチ」が私たちへの対価につながるのだと考えていますし、今後もこの方向性は変えるつもりはありません。

Question

人的資本の充実に向けた考え方についておたずねします。

私のスタイルは「放牧型マネジメント」です。これは、職員に思いきり走ってもらうためのもので、従来の銀行に見られる「ケージ型マネジメント」とは異なります。そのためには目指すべき方向性や価値観を

しっかりと伝え、共感を生み出していくことが重要です。シンプルかつ一貫性のあるストーリーとして、何度も繰り返し伝えることで、職員自身の主体性を醸成しています。

私は、真の「ウェルビーイング」の実現のためには、働く環境や処遇を改善するだけでは不十分だと考えています。目指すのは「グロースゾーンで感じるウェルビーイング」だと伝えているのですが、職員には、お客さまから感謝をいただくためなら大変なことでも一生懸命取り組むことで、「働きがい」と「成長」を実感してほしいと思っています。そのためにも主体性を促す考え方教育やマネジメント教育など、一つひとつ着実に、かつスピード感をもって進めていきたいと考えています。

Question

コンプライアンスについて聞かせてください。

「信用」「信頼」をベースとする銀行グループにとって、コンプライアンスは最重要事項です。ただ、机上のプランや分析、ルールが過剰になり過ぎると行動の自由やチャレンジの可能性を奪うとも考えています。特に、ルールだけにとらわれるのではなく、実態に則したリスクベースのコンプライアンスが重要です。ルールはもちろん大事ですがリスクも取っていくバランス感覚が必要です。現在、お客さま

に向き合う時間を増やすため、阻害要因となっている事務作業などを見直す取組みを行っており、既に100件近くを実行に移しています。見直しを実践していくのは現場である営業店ですが、そのリスクテイクは本部・経営陣がしていくのだから、現場には積極的に取り組んでほしいと伝えています。

Question

福井県の動向と、今後の取組方針を聞かせてください。

少子高齢化の進展から、今後、福井県の定住人口は減少していきませんが、北陸新幹線の敦賀延伸、中部縦貫自動車道の県内開通などにより、交流人口は増加していくと予想されます。その中で、この動きをどうビジネス化するかが重要であり、私たちはその実現をサポートしています。たとえば、宿泊、コンベンション施設などハード面の整備も支援していくことで、県内の資金需要を創出し、活力にあふれた地域の実現に力をつくしています。お客さまとともに「ありたい姿(夢)」と「真の課題」を共有し、グループ一体で「圧倒的な当事者意識」を持って伴走支援していく。そして、ファイナンスも含めた「課題解決業」として進化していくことで事業の拡大を図りたいと考えています。今後の福井銀行に、ぜひ、ご期待いただきたいと思います。

Fプロジェクト Vision 2032

(2022.4-2032.3)

私たちは 職員・お客さまの多様なチャレンジに伴走し
「地域価値循環モデル」を実現します

Slogan
チャレンジ、いいね。

[地域価値循環モデル]

生み出された価値が
新たなチャレンジに循環

[地域のチャレンジに伴走]
活力にあふれた地域の実現

[お客さまのチャレンジに伴走]
事業成長や資産形成の実現

[職員のチャレンジに伴走]
ウェルビーイングの実現

[チャレンジゴール]

ウェルビーイングを実感する
職員の比率

100%

1人あたりの福井県民所得

+100万円

福井県活力人口

100万人

連結当期純利益

100億円

※県民所得：個人や企業の所得を表す県民経済全体の所得のこと

※活力人口：「福井県長期ビジョン」で基本目標に掲げる人口の考え方。交流人口・関係人口を定住人口に換算し、定住人口と足し合わせた人数のこと

長期経営計画

ウェルビーイング実現に向けた取り組み

コンサルティング
ドメイン

3つのドメインによる
事業展開

ユーザビリティ
ドメイン

ファンダメンタル
ドメイン

事業ポートフォリオの構築
(経営資源配分)

中期経営計画Ⅰ

(2022.4-2025.3)

中期経営計画Ⅰの戦術

ウェルビーイング戦術

コンサルティング戦術(地域)

コンサルティング戦術(法人)

コンサルティング戦術(個人)

ユーザビリティ戦術(法人・個人)

ファンダメンタル戦術

機能別戦術(人事)

機能別戦術(チャネル)

機能別戦術(デジタル)

経営管理体制

グループ体制

中期経営計画Ⅰのアクションプラン

01 役職員へのウェルビーイングの浸透

02 ネットワーク(産学官金連携)を活かした「まち・ひと・しごと」の面的支援

03 伴走型支援を通じた真の経営課題の発見と解決

04 ライフステージに応じたサービスの展開によるQOLの向上

05 金融インフラサービスの利便性向上とプラットフォームの構築

06 資金運用の多様化とノウハウの蓄積

07 戦略分野への人財配置と計画的育成

08 地域に根差した「ヒト×デジタル」のハイブリッドチャネルの提供

09 デジタル利活用による利便性・生産性の向上

10 利益・ALM・リスクの一体管理とコンプライアンス体制の高度化

11 グループシナジーの最大化

目標経営指標の進捗

連結当期純利益

※親会社株主に
帰属する当期純利益

2024年度目標 **40** 億円以上

2023年度
中間期実績 **17.6** 億円 目標進捗率
44.0%

連結コアOHR

2024年度目標 **77.0** %以下

2023年度
中間期実績 **80.2** % 目標比
3.2ポイント未達

連結自己資本比率

2025年3月末目標 **7.0** %以上

2023年度
中間期実績 **7.56** % 目標比
+0.56ポイント

連結ROE

2024年度目標 **3.0** %以上

2023年度
中間期実績 **2.84** % 目標比
△0.16ポイント

2024年3月16日 北陸新幹線 福井・敦賀開業!

当行グループでは北陸新幹線の福井・敦賀開業という100年に一度のビッグチャンスを見逃さず、その効果を地域に波及させるために、新幹線新駅周辺を中心としたまちづくり支援や観光・物販事業の販路拡大支援を行っています。



越前たけふ駅※



敦賀駅※



芦原温泉駅※



福井駅※



※各駅の写真
提供：JRTT鉄道・運輸機構

北陸新幹線W7系
JR西日本承認済

まちづくり支援

福井駅前電車通り北地区A街区の再開発では、2016年にユアーズホテルフクイ周辺の地権者を中心とした協議会が発足。以降、当行は事務局運営をサポートしています。ホテル運営者としてコートヤード・バイ・マリオットの進出が決定し、2024年春の再開発ビルの一部施設開業に向けて、工事が進められています。

芦原温泉駅周辺では、官民一体となった「まちづくり協議会」の運営事務をあわら市より受託し、地域住民・あわら市と連携を図りながら、当行グループが持つ企業ネットワークを活用し、ホテル事業者の進出のお手伝いをしました。敦賀駅西土地活用事業では、選定された事業者（SPC）に対し、地元金融機関と連携し資金面や地元企業の紹介など通じて、ご支援しました。2022年9月にホテル、飲食・物販テナント、子育て支援施設などが整備された複合施設が開業し、敦賀駅周辺の賑わいにつながっています。



「福井駅前電車通り北地区A街区市街地再開発組合」HPより

観光・物販事業の販路拡大支援

2022年7月に設立した「ふくいヒトモノデザイン株式会社」では、これまで当行グループが培ってきた地域のネットワークを活用し、福井県内の観光地や地域資源をつなぎ、観光・物販事業の販路拡大を支援することで、地域経済の発展に貢献していきます。

ふくいヒトモノデザイン 株式会社

●観光事業

福井県観光連盟など福井県内に活動拠点のある企業・団体とともに「福井県観光DX推進マーケティングデータコンソーシアム」を結成し、観光DXの推進を図り、県内観光地の稼ぐ力を高める活動を行っています。また、インバウンド向けのツアー商材の企画等も行っています。

●物販事業

消費者のモニター調査、売り場の意向調査などを行って、新商品を企画し、地域の事業者と共同で商品化をしています。そのひとつとして、「ふくいみたらし芋団子瓶」、「ふくいへしこオイル瓶」など、福井オリジナルお土産の商品開発を行っています。



ふくいみたらし芋団子瓶



ふくいへしこオイル瓶



FUKUI × NOMURA alliance

「福井の未来に、金融の力を」

2023年5月より提携業務スタート！

福井銀行と野村證券は金融商品仲介業務における包括的業務提携に基づき、2023年5月より本提携業務を開始しました。福井県4か所にコンサルティングプラザを開設し、野村證券からの出向者と福井銀行の職員がお客さまのライフステージに応じた質の高いコンサルティングを提供しています。人生100年時代への備えや次世代への資産承継などのアドバイスを通じて、地域のお客さまの豊かな生活や健全な資産形成を持続的にご支援していきます。

●県内4か所にコンサルティングプラザを開設

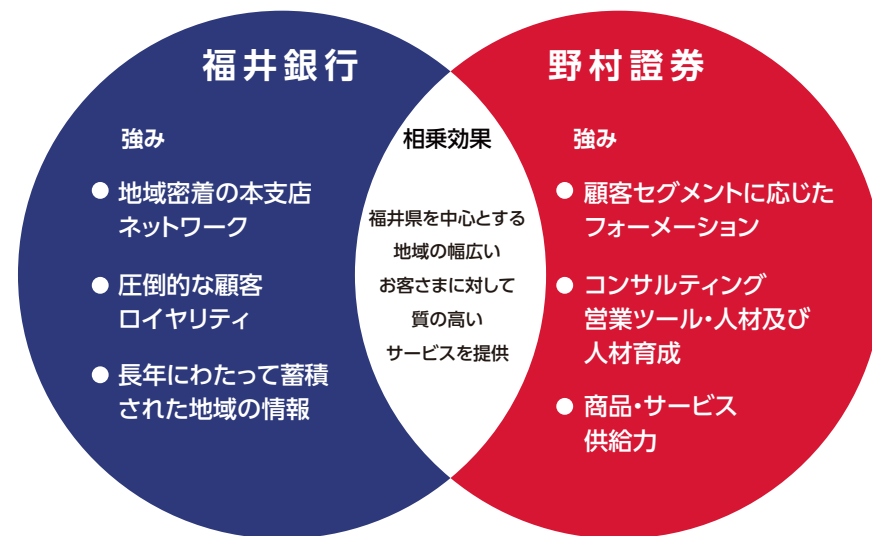
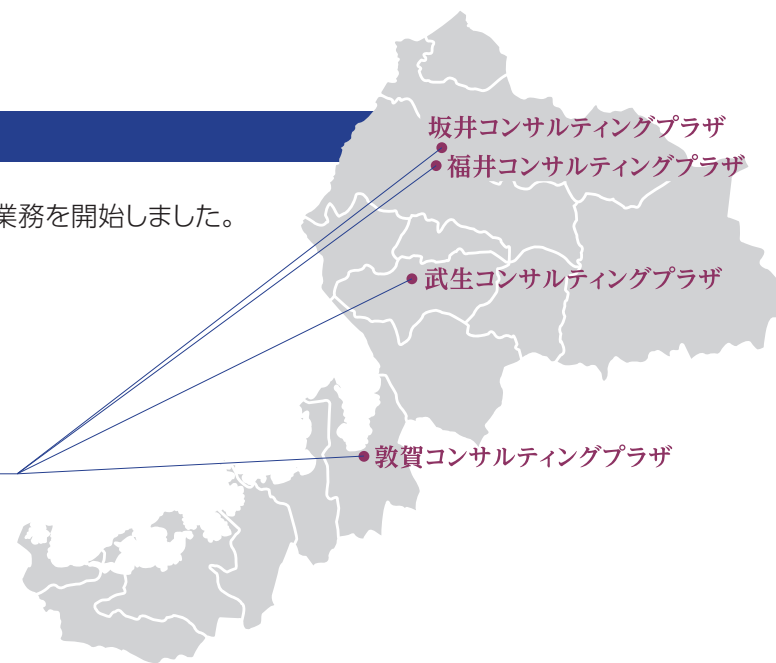
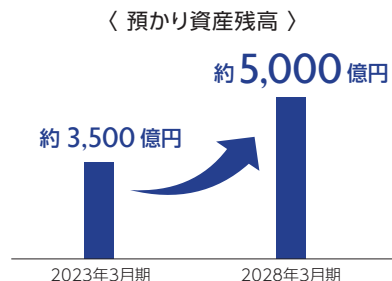
コンサルティングプラザでは当行職員と野村證券の出向者が協働して資産形成・資産運用のコンサルティングを行っています。両社の企業文化は異なりますが、お互いの良いところを吸収し、より一層高いレベルでのサービスを提供できるよう、コミュニケーションを深め、同じ目標に向かって相互に刺激しあうことで、確実な成果につながっています。



コンサルティングプラザでの勉強会の様子

●5年後の預かり資産残高を5,000億円に

福井県内に強固な顧客基盤・地域のネットワークを有する福井銀行と、豊富なノウハウ・商品ラインナップを有する野村證券の双方の強みを最大限活かすとともに、コンサルティングプラザと営業店の連携を強化することで、付加価値の高いサービスを提供し、2028年3月期までに預かり資産残高を5,000億円まで拡大することを目指します。



カーボンニュートラルに向けた取組み

当行グループのCO₂削減の取組み



消費電力の
再エネ化



新店舗の
ZEB化



高効率機器の
導入



環境対応車の
導入

TOPIC

2023年5月8日に新築・移転した福井銀行金沢支店・福邦銀行金沢支店は一次エネルギー消費量を75%以上削減する「Nearly ZEB(ニアリー・ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)」建築となっています。また、金沢支店では営業車として電気自動車を導入しました。



お客さまの脱炭素支援

当行グループでは、各ステップに応じたソリューションを提供し、お客さまの脱炭素経営をサポートしています。

STEP 1 知る STEP 2 測る STEP 3 減らす

情報提供

国や自治体の規制、
業界の動向、
同業他社事例等をご紹介

排出量可視化

外部事業者と提携し、
Scope1・2・3での排出量算出
と可視化をご支援

目標設定・計画策定

外部事業者と提携し、国の削減目標
やお取引先からの要請を踏まえ、
目標設定・計画策定をご支援

削減実行

当行グループのネット
ワークを活かし、各設備更新や
運用改善の専門家をご紹介

資金支援

資金計画作成、補助金/助成金の
申請サポート、融資のご提供、
リース等、資金ニーズをご支援

TOPIC

<ふくぎん> サステナブルローンの取扱開始

地域社会のサステナビリティを巡る課題解決支援の一環として、お客さまのカーボンニュートラルやSDGs・ESGの取組みを資金面からサポートする「<ふくぎん>サステナブルローン」の取扱いを開始しました。

資金使途・調達形態に応じて、①<ふくぎん>グリーンローン、②<ふくぎん>サステナビリティ・リンク・ローンの性質の異なる2つの商品を用意しています。

業績ハイライト

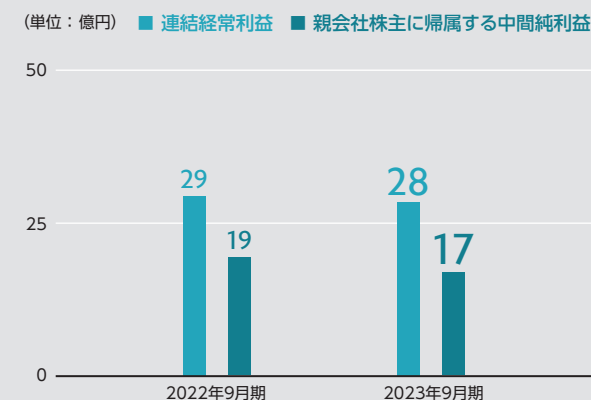
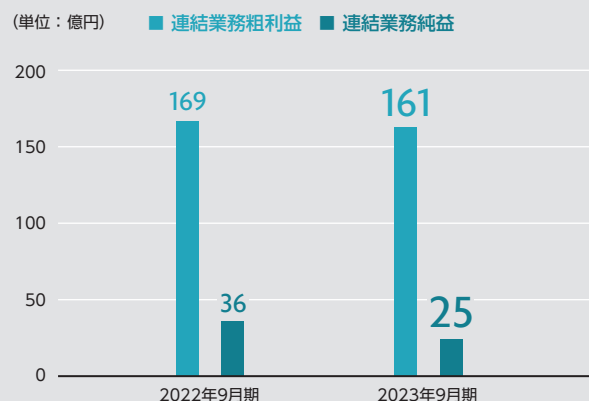
2023年9月期の決算についてお知らせします。

連結業務粗利益・連結業務純益、連結経常利益・親会社株主に帰属する中間純利益

連結業務粗利益は、グループ全体でお客様の本業支援や資金繰り支援に継続して注力したことにより、貸出金利息が増加したものの、前年度計上した投資信託解約益の反動及び投資信託における配当金減少の影響による有価証券利息配当金の減少を主因に、前年同期比7億89百万円減少し161億64百万円となりました。

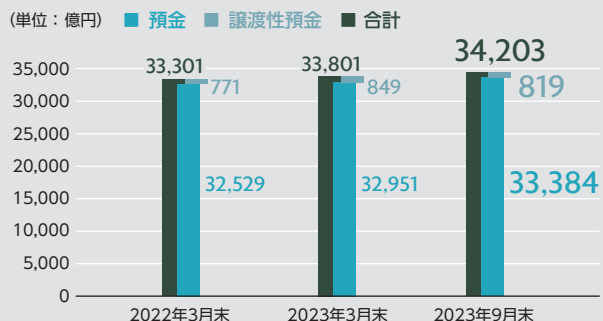
連結経常利益は連結業務粗利益の減少を主因に、前年同期比1億25百万円減少し28億16百万円となりました。

親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比2億7百万円減少し17億62百万円となりました。



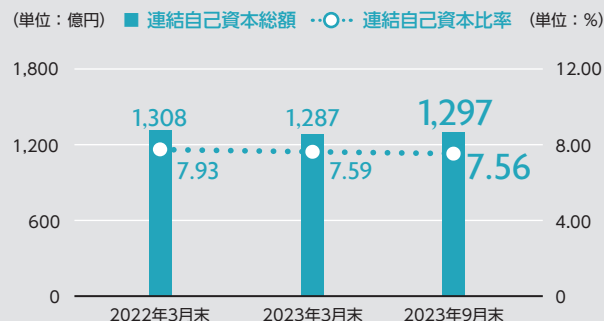
預金等 (2行合算)

譲渡性預金を含む預金等は、法人・個人がともに増加したことから、全体で期中402億円増加し期末残高は3兆4,203億円となりました。



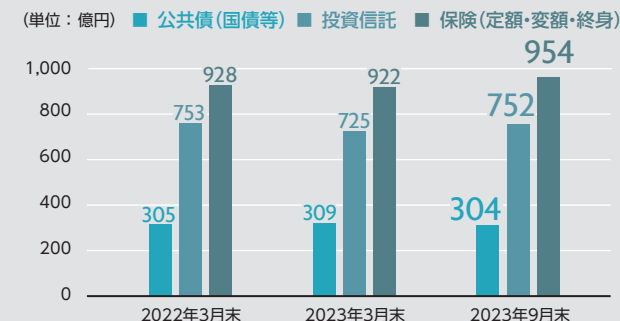
連結自己資本比率 (国内基準)

2023年9月末は自己資本の額が前年度末比9億円増加したものの、貸出金・有価証券の増加を要因としてリスク・アセットが216億円増加したことにより、自己資本比率が低下し、連結自己資本比率は7.56%となりました。



預り資産 (2行合算)

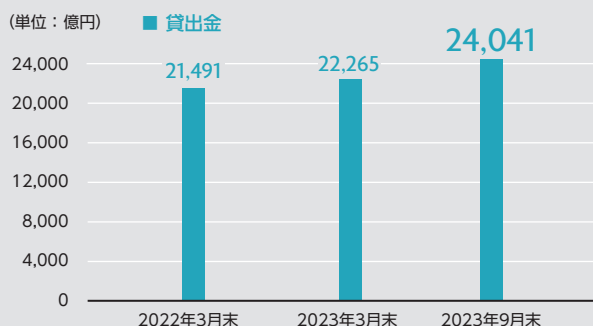
公共債(国債等)は、期中4億円減少し期末残高は304億円となりました。投資信託は期中27億円増加し期末残高は752億円となりました。保険(定額・変額・終身)は、期中31億円増加し期末残高は954億円となりました。



公共債(国債等)：額面ベース 投資信託：純資産残高ベース(口数×基準価額÷1万口)
保険(定額・変額・終身)：払込保険料の合計額

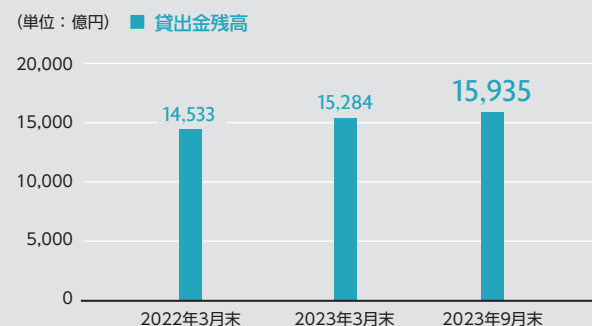
貸出金（2行合算）

貸出金は、事業性貸出金が増加したことから、期中1,775億円増加し期末残高は2兆4,041億円となりました。



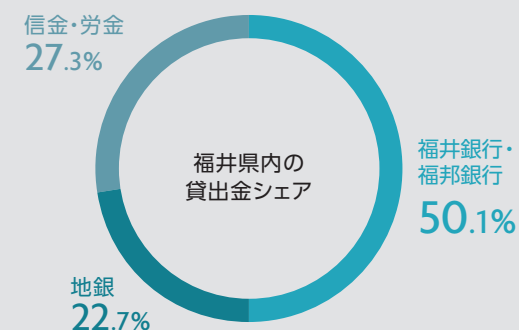
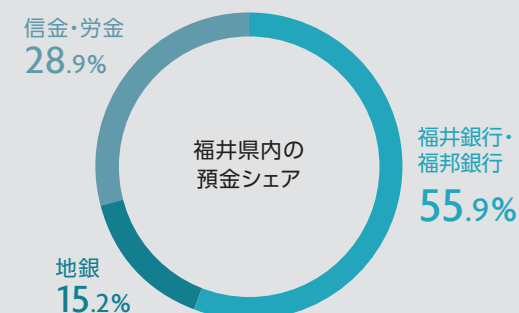
中小企業等向け貸出金（2行合算）

中小企業等向け貸出金残高は期中651億円増加し1兆5,935億円となり、貸出金残高の66.2%となりました。



預金・貸出金シェア（2行合算）

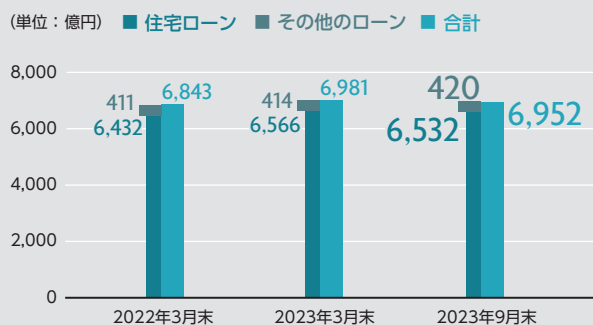
お客さまからの高い信頼に支えられて、福井県内において、預金・貸出金ともにトップシェアを保っております。引き続き、地域のみなさまから信頼される銀行を目指してまいります。



(2023年9月末現在)

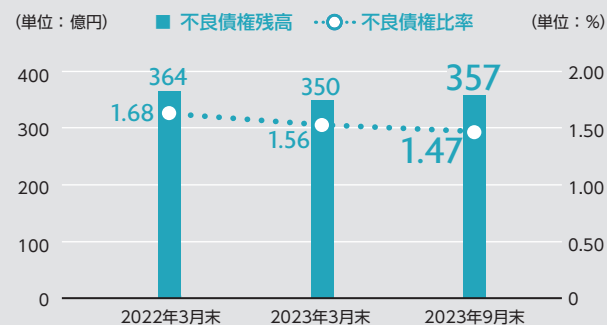
消費者ローン（2行合算）

消費者ローンは、期中29億円減少して期末残高は6,952億円となりました。うち住宅ローンは、期中34億円減少して期末残高は6,532億円となりました。



不良債権（2行合算）

2023年9月末の不良債権残高は、前年度末比6億円増加し、357億円となりました。また、不良債権比率は、前年度末比0.09ポイント改善して1.47%となりました。



株式についてのご案内

● 事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日までの1年

● 定時株主総会

6月中

● 基準日

定時株主総会 3月31日
剰余金の配当 期末 3月31日
中間 9月30日

なお、配当金のお受取りには、お近くの当行本支店の預金口座振込をご指定くださいますと早くて便利です。

● 株式事務取扱場所、取次所

- (1) 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- (2) 事務取扱場所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部

● 公告方法

電子公告の方法により、当行ホームページに掲載いたします。(https://www.fukuibank.co.jp/)

● 株主優待制度

毎年3月31日現在の株主名簿に記載された当行株式300株以上保有の株主さまを対象とさせていただきます。

● 株主優待制度の内容

地元福井県の特産品または社会貢献活動に対する寄付から保有株式数に応じて選択していただきます。

保有株式数	優待品または寄付
300株以上1,000株未満	3,000円相当
1,000株以上	5,000円相当

※優待品の例（写真はイメージです）



※寄付について

2023年3月31日基準日の寄付につきましては、69名の株主さまにご賛同いただき、公益財団法人福井銀行教育福祉財団に327,000円の寄付を行いました。

当行の概要

名称	株式会社 福井銀行 (The Fukui Bank, Ltd.)
所在地	〒910-8660 福井県福井市順化1丁目1番1号
電話	0776-24-2030(代表)
ホームページ	https://www.fukuibank.co.jp/
設立年月日	1899年12月19日
資本金	179億65百万円
従業員数	1,303名(出向者、嘱託および臨時職員含めず)
店舗	有人店舗数 64か店 店舗内店舗数 31か店 その他 3か店 合計 98か店 ※店舗内店舗：他の当行店舗建物内に併設移転した店舗。 ※その他：振込専用支店、ジュラチック王国支店 (インターネット支店)、小浜支店名田庄営業室 (毎週水曜日(休祝日除く)のみ営業) 店舗外自動機設備 40か所 (ATM運営会社・セブン銀行との共同設置を除く)
主要勘定	預金等残高 2兆9,893億円 貸出金残高 1兆9,761億円 有価証券残高 6,651億円
株式の状況	発行済株式総数 24,144千株 株主数 9,116名

(2023年9月30日現在)



「FUKUI BANK REPORT 2023」
(統合報告書)では、
福井銀行の財務・非財務情報を
統合的にご確認いただけます。



株式お手続き用紙のご請求をインターネットでも受付いたしております。

三菱UFJ信託銀行株式会社のホームページアドレス <https://www.tr.mufg.jp/daikou/> (左記URLの「特別口座に関するお手続き(上場会社)」よりお入りください。)
証券保管振替制度をご利用の方は、お取引口座のある証券会社へご照会ください。

[当行株式についてのお問い合わせ先]

☎ 0120-094-777
受付時間：土・日・祝日等を除く 平日 9：00～17：00

[郵便物送付先]

〈相続手続以外〉
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〈相続手続〉
〒540-8694 大阪東郵便局私書箱第455号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部